

平成27年度 総合的な学習の時間 全体計画

《総合的な学習の時間 目標》
 横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すると共に、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

《学校教育目標》
 感性豊かでたくましい心を持ち、
 主体的に生きる児童の育成
 ・たすけあう子 ・かんがえる子 ・きたえる

《児童・保護者・地域の実態》
 〈児童〉
 ・与えられた課題に対して努力するが、自ら考え工夫して行動する力は十分とは言えない。
 〈保護者〉
 ・学校教育に対し協力的である。
 〈地域〉
 ・仙台市の南部に位置している。栗遺跡の上に校舎が建ち、伝統文化として柳生和紙が作られている。
 ・学校支援地域本部との連携による学習を進めている。

《西中田小学校 総合的な学習の時間 目標》
 地域や自然、人と探求的にかかわることを通して、自分の周りで起こる様々な事象に対し、主体的に課題を見だし、追求、解決しようとする力を育成する。

《育成すべき資質や能力及び態度》

視点	3・4年	5・6年
学習方法に関する事 学習方法に関する事	①見つける力 ①生活や自分の体験の中から、調べてみたい課題を見つける。	①これまでの生活経験や身のまわりの出来事の中から、課題を見つける。
	②解決する力 ②色々な調べ方を知り、進んで情報を集め、粘り強く追求する。	②調べ方を工夫し、計画的に情報を集める。それらを整理・分析しながら追求し、最後までやり遂げる。
	③表現する力 ③自分の考えや思いを、様々な表現方法でまとめたり、進んで伝えたりする。	③目的や意図に応じて表現方法を工夫したり、相手に分かりやすいように伝えたりする。
自分自身に関	④生かす力 ④学んだことを、自分の生活や周囲の人のために生かそうとする。	④学んだことをもとに現在の自分や将来の生き方を考え、実践しようとする。
関係者や社会との	⑤かかわり合う力 ⑤友達や地域の人と共に、課題を解決する。	⑤体験対象に主体的にかかわり、友達や地域の人と共に課題を解決する。

《学習内容》

学習課題	学習対象	学習事項
横断的・総合的な課題	福祉	身の回り的高齢者やハンディキャップをもった方々とその暮らしを支援する仕組みや人々 ・身の回り的高齢者やハンディキャップをもった方々とその暮らし ・地域における福祉の現状と問題
	国際理解	地域に暮らす外国人とその人達が大切にしている文化や価値観 ・日本の伝統や文化とそのよき ・世界の国々の伝統や文化とそのよき ・異なる文化と交流する活動や取組
	環境	身近な自然環境とそこに起きている環境問題 ・身近な自然の存在とそのよき ・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・環境の保全やよりよい環境の創造のための取組
児童の関心	生き方	将来への展望とのかかわりで訪ねてみたい人や機関 ・地域社会を支える様々な職業や機関 ・働く人の存在と働くことの意味 ・自分自身のよきへの気づきと将来展望
じ地域や学校の特色に応	地域	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 ・地域の施設の様子 ・地域の伝統・文化・行事のもつ特徴 ・地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々の思い ・地域の一人として、地域の伝統や文化を受け継ごうとする活動や取組
	防災	防災のための安全な町づくりとその取組 ・災害の恐ろしさや防災意識の大切さ ・地域で防災に取り組むよきと安全な町づくり ・地域や学校の一人として、災害に備えた安全な町づくりにかかわろうとする活動や取組

《本年度の主な学習活動》

		学習活動
3年	福祉	・地域発見 自然・施設・バリアフリー ・地域の福祉 障害について・キャップハンディ体験・福祉施設
4年	国際理解	・世界は友達 ・柳生和紙 ・紙のひみつ ・日本の伝統文化
5年	環境・防災	・名取川の自然 ・名取川の間 ・自然災害 ・自然災害を防ぐ
6年	生き方	・ふるさと仙台を学ぼう ・岩手を訪ねよう ・スチューデントシティ

《指導方法》

・児童の課題意識を繋げ新たな課題を生み出す支援
 ・児童の深い見取りによる個に応じた支援の重視
 ・児童が諸感覚を使って試行錯誤できる体験活動の工夫
 ・協同する活動が必然的に生まれる学習活動の展開
 ・言語活動を適切に位置付けた、体験の意味の自覚化

《学習の評価》

【学習状況の評価】【指導計画の評価】【学習指導の評価】の方針や手立て
 ・ポートフォリオを活用した評価の充実
 ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定
 ・個人内評価の重視
 ・指導と評価の一体化の重視
 ・学期末、学年末における指導計画の評価の実施
 ・授業分析による学習指導の評価の重視

《指導体制》

・学年を中心とした指導とサポートの体制を構築する。
 ・研究推進委員会、学年会での実践と情報の交流を行う。
 ・かやのホールやさくら・くりルームの活用と学年全体での指導を意識して行う。
 ・担任以外の教職員による支援体制を確立する。